



箱根駅伝 100 回記念!

# 箱根駅伝と東海道踏破の旅

お正月恒例の箱根駅伝。来る2024年は第100回の記念大会です。襦をつないで往復217キロを走る選手の気持ちになって、大手町から芦ノ湖へ、さらに東海道を西へ進んで京都まで全492キロの旅へ、いざスタート!

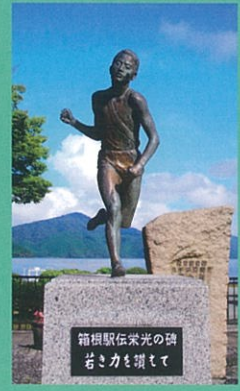
## 東海道

江戸から派生する五街道のひとつで、言わずと知れた天下の幹線道路。「箱根八里」の峠越えや、相模川・大井川の川越えなどの難所もありましたが、富士山や白砂青松の海岸線など美しい眺めに励まされつつ、旅人はこの道を往來しました。安藤広重の『東海道五十三次』で、往時の宿場風景や旅人たちの様子をうかがい知ることができます。



## 箱根駅伝

正式名称は「東京箱根間往復大学駅伝競走」で、第1回大会は1920(大正9)年。マラソンの父として知られる金栗四三らが、世界に通用するランナー育成のために創設した大会で、早大、慶大、明大、現筑波大が出演する「四大校駅伝競走」という名称でした。現在は、前大会のシード校10校と10月の予選会を通過した10校、さらに関東学生連合を加えた21チームが出場しますが、第100回大会は予選会出場校が関東から全国に拡大、関東学生連合は結成されず合計20チームでの戦いとなります。



**START**  
東京・大手町



由比(薩埵湾)



箱根(箱根関所)

**GOAL**  
京都



京都(三条大橋)



関(関宿の町並み)

### 東海道マメチシキ 橋のない川も渡るスリリングな旅

海沿いの多い東海道は大河川をいくつも通過しますが、江戸城を守るという軍事上の理由などで橋がかけられず、渡船すら許されない川もありました。その場合は川越し人足の手を借り、肩車されたり、れん台に乗せられたりして渡ったそうです。大雨で増水すると、手前の宿場で何日も足止めをうくことも。

### 箱根駅伝マメチシキ

#### 駅伝の原型はほぼ東海道

1917(大正6)年に日本初の駅伝となる「東京奥都五十年奉祝・東海道駅伝徒歩競走」が、京都三条大橋と東京・上野不忍池間で行われました。読売新聞社が上野で開く大博覧会の協賛イベントとして企画したもので、全516キロを23区間に分け、関東と関西の2チームが3日間昼夜走り続けるという過酷なレース。これが箱根駅伝の原型となりました。

### 箱根駅伝マメチシキ

テレビ生中継は意外に遅かった  
箱根山中の電波障害を克服すべく、日本テレビが双子山などに無線基地を設置するなどし、1987年に初めて生中継が実現しました。

### 記入の仕方

- 1日(起床から就寝まで)の歩数と累計を裏面のウォーキング記録表に記入していきます。
- このコースは61コマで区切っています。8,000歩に達したら1コマを塗りつぶしていきます。
- キャンペーン終了後も、各自で目標を定め、引き続きウォーキングを楽しんでください。

### 東海道マメチシキ

#### 江戸時代、京都まで何日でたどり着いた?

一般的に当時の人は一日になんと30~40キロは歩き、京都まで2週間程度で到達していたとか。飛脚にいたっては、宿場ごとのリレー制ではありますが、わずか3~4日で走りきったようです。

